

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 済家会 グループホーム長庚堂
(ユニット名)	長庚堂
所在地 (県・市町村名)	長崎県島原市弁天町1丁目7054番地
記入者名 (管理者)	川田 みどり
記入日	平成 20年 1月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		家庭的な環境の下でゆっくりと安心した生活を支える為の柔軟な支援を柱に置いている。 これまでの理念を見直し地域密着でその人らしく生活して頂く支援を継続し、理念を作り挙げて行く。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の申し送り時や、スタッフ会議時等に理念を振り返り、再確認しケアに取り組んでいるが忙しい時など再確認出来ないことがある。 毎日の再確認を意識付け怠らないよう心がけ実践する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族には面会時や家族会の時に伝えるようにしている。また、地域住民の方には町内会長様を通じて回覧板や行事参加時に伝えるよう努めている。 今後、もっと地域に伝わるようホーム便りの配布やイベントの参加を増やし理解を深める努力をしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常的に散歩や買い物、通院の送迎時などに出かける時は必ず挨拶を交わしたり、会話を心がけている。 普段から施設に遊びに来れる様なふれあいの機会を作り声掛けをして行く。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会にも加入しており、町内会会長様を通じ、老人会の行事やお祭り、イベントなどの声掛けを頂いており、入居者様と一緒に出かけ参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として小、中学生や専門学生などの実習など受けている		今後も町内会会長様と連携をとり認知症ケアの啓発に努めて行く
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めるよう心がけている。改善計画を話し合い検討して取り組むよう努力している。		職員の意識あわせをしてケアの見直し、評価、計画を定期的に行い質の向上に活かして行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は必ず、会議にて確認して貰い意見を頂くようにしている。会議では事業所からの報告と共にメンバーの方から質問、意見、要望などを受けている。		意見や要望などを参考にサービスの向上に今後も活かして行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも空情報の報告や事業所の避難訓練にも協力参加を頂き、施設便りも配布している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が対応するため、他職員は理解出来ていないので体制が万全とは言えない。		勉強会や研修に参加し、職員の理解を深め、体制を整えて行く。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H18年度の長崎県身体拘束廃止推進員養成研修に、管理者と職員が参加しており、スタッフ会議にて職員全体で勉強会を開き防止に努めている。		全職員が虐待防止の徹底を周知し、対応出来るように取り組んで行く

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な時間を取った説明にて同意を得る様にしている。状態変化によっては、その都度、本人やご家族を交えて対応し相談をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度などから、その思いを察するように努力しており、利用者本位の運営に心がけるようにしている。</p>	<p>利用者の要望や意見を出し易い話し合いの場作りに心がける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な便りでの報告と面会時に状態報告をしており、遠方のご家族の方には電話やFAXなどでのやり取りにて報告している。金銭管理は出納帳にて家族に確認して貰いサインを頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会を設けており、職員は席を外し、話し合いの場を作り意見を代表者から伝えて貰い、サービスに反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議で職員の意見、要望を出し合い食事会を設けコミュニケーションを図りながら行うこともある。</p>	<p>不満や苦情は言い難い事もあるので把握できていない部分もあると思うので個別面談も行う。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組み、勤務も無理の無いように工夫している。管理者は夜間の対応や利用者の状態変化に応じる事が出来る体制を取っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアに心がけている。</p>	<p>職員の交代時は利用者のダメージを防ぐよう、十分な引継ぎ時間を取りスムーズに移行出来る様に配慮したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア研究会の会員でもあり、計画的に研修や勉強会が開催されており、また母体法人での勉強会にも参加し学んでおりスタッフ会議にて全職員に報告している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会(島原半島ケア研究会)会員で研修や交流会にも参加し、サービスの質の向上に繋がっている。母体法人にもグループホームがあり交流、話し合いの時間を取っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	母体法人の運営にて多忙であるが、管理者より随時報告を受け連携に努めている。管理者が定期的に親睦を兼ねて気分転換できるよう配慮している。		管理者や職員の個々のストレスや背景を理解するよう楽に話し合える場を作る。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者より随時報告は受けているが、完全に把握できるまでは至っていない。		職員が向上心を持ち勤務できるよう職能評価を行えるように努める
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所は相談時に状況を把握するよに努め、利用者によっては事前に通所して頂き工夫するよにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の思いや困って居られる事、これまでの経緯を十分に聞き対応に心がけて信頼関係を築けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の実情や要望を基に状況を確認し改善に向けた支援の相談でサービスの利用または他の事務所サービスへの対応に繋げるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学して頂き本人やご家族へ安心して貰い利用へ移行しているが、急を用し、すぐ利用されるようになった場合は、ご家族、関係者に来て貰い安心感を持ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である事を職員全員が共有しており、普段から利用者から学ぶ事が多い。お互いが協働しながら和やかに生活を送れるよう声掛け支援に配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を行い、共有するよう努めており、ご家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事にご家族を招待したり、外出や外泊も状況を見極め一緒に過ごせるよう配慮する心がけをしている。遠方のご家族の利用者には電話や手紙、FAXなどを利用して支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望にて墓参りに行ったり、知人の家に行ったりと継続的な交流や生活習慣を尊重した支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に傾聴したり、相談に載ったり又は、他利用者と楽しく過ごす時間作り、関係作りを職員が働きかけるよう支援している。		心身の状態や気分、感情で日々変化するので職員全員が共有できるよう情報連携を怠らないようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設や自室へ移られた方も手紙や面会に行ったりご家族からの相談のもののように心がけている。		状態によっては、顔馴染みの利用者さんとも一緒に面会に行くようにする。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の係わりの中で言葉や表情などで把握するよう努め意思疎通が困難な方はご家族からも情報を得るようにしている。		本人の思いとご家族の思いに違いがある時は最良の生活状況を一緒に何度も話し合う事で理解を得るようにする。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人、ご家族や関係者の方から聞き取り、利用後も把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者各自の生活リズムを理解するよ努め、本人の出来る事を見つけ、その人全体の把握に心がけている。		日々の生活リズムも個々に全職員が十分に把握できるよう努める
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員間でカンファレンスを行い、計画している。ご家族は見てもらっていると遠慮もあり要望が少ない。		ご家族からの要望、意見を遠慮なく聞ける雰囲気作りに心がけ場所を設ける
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報を確認し期間終了前に見直し、状態変化時は検討見直しを行っている。		期間に捕らわれず本人、ご家族、関係者と話し合い、その時の気付きや意見を反映し臨機応変に見直しに行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しており、食事、バイタルチェック、排泄、身体状況、様子など記録しており職員が確認できるようにしている。また毎日、引継ぎ申し送りにて報告共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎等、必要な支援に対応し、本人やご家族の満足度を高める努力をしている。医療連携体制を生かし利用者の負担となる受診、健康管理の強化に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて連携、協力を得よう心がけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望等に応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている。また母体法人のケアマネジャーとの話し合いの場も設けておりサービス利用に支援している。		尿、便失禁があり温泉などの利用が出来ていないが今後はご家族の協力を得て、排泄コントロールが出来る方の利用に取り組んでいきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており関係が強化され、情報交換、協力関係に築かれている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望する、かかりつけ医にて受診、通院も希望にて対応しているが、訪問診療にも来て頂き協力支援がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医の専門医より状態に応じて指示や助言を貰っている。必要に応じては受診もしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体法人の看護師より常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるよう支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師と良く話し合う機会を持ち対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう努めている。入院中も頻回に職員が見舞い、ご家族との情報交換に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し対応し得る最大のケアについては説明を行っている。		今後は終末に対する対応指針に定めご家族、医師、看護師を交えた話し合いを行っていく。また状態の変化があるごとにご家族と本人の思いに注意を払い支援に繋げる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にし、ご家族と話し合い安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合は直ちに対応していただけるよう医療機関とも連携を図り対応している。		安心して納得した最期が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んで行く。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合は担当者でアセスメント、ケアプラン、支援状況等と共に情報交換を十分に行い、ダメージを最小限に止めるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の職員の意識向上を図ると共に利用者、ご家族との関わり方、プライバシーを損ねないよう対応に心がけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取り本人が決定できるよう心がけている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の気持ちを尊重した個別性のある支援に心がけている。買い物や散歩も本人の希望時に対応に心がけている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の生活習慣に合わせた支援に心がけており本人の希望する理美容院にてカット、ヘアカラーもして貰っており連携も取っている。更衣や化粧も本人に決めてもらい支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人からの給食サービス(昼食と夕食)にて好みは活かせていない。朝食のみ利用者と調理し片付けは毎食、一緒に取り組んでいる。	食事に関しては母体法人より給食サービスにて栄養士のメニューにて制限されているが、今後は利用者の好みでメニューを取り入れてもらう日を配慮して貰える様にする。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人一人が楽しめる物を理解するよう心がけ、状態や病状に合わせた支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用されている利用者の方にも排泄パターンの把握に努めトイレ誘導を心がけている。		個々の排泄パターンを全職員が把握し、オムツ使用減少に心がけ気持ちよい排泄ができるよう支援する。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲の良い方同士と一緒に会話を楽しみながら入って頂いており、職員の見守りと支援により安心感を持つて貰い入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望を考慮して、ゆっくり休息できるよう支援している。寝付かれない方には会話したり、希望によっては飲み物などを出し配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができられる仕事はお願いし、草花の手入れや行事などにも相談しながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の力や希望に合わせて、本人に管理して頂いており、事業所が管理している方でも一緒に買い物する時は本人に手渡し支払ってもらったりしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調、希望に応じて散歩や買い物、ドライブなどに出かけるよう心がけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方への外出については予め計画を職員全員で立て、勤務を調整し支援している。場合によってはご家族の協力も得る事もある。		利用者の希望を聞き、家族会などで検討し計画を立て取り組んで行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のプライバシーを配慮しながらご家族や、知人への電話や手紙、FAXを欠かさないよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、いつでも気軽に訪ねて来れる様に配慮している。職員の挨拶、お茶等の配慮を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員養成の研修にも参加しており、全職員に申し送り時に共有認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出しそうな様子を察知した時は声掛けし、一緒に出かける等、安全面にも配慮し日中は玄関の鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で作業を行いながら全員の状況を把握するよう努めており、夜間も居室が見えるよう食堂にて安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ保管管理が必要な物、利用者側で保管できる物と分けて管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記録をし、職員の共有認識を図っており、事故発生時は事故報告書を作成し今後の予防対策について検討し、すみやかにご家族への報告説明を行っている。危険を予測し未然に防ぐための工夫も取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ケア研究会研修会や母体法人での研修会にて体験習得するようにしている。マニュアルに添って実施しているが、夜勤帯では職員の不安もある為に、管理者に連絡を取り対応するよう指導している。		全職員が確実に応急処置、対応ができるように定期的に訓練を行い習得する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しているが町内会、消防団の方の参加もあり協力を得、連携を蜜にしている。また母体法人の避難訓練にも年2回参加し訓練に心がけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や面会時を利用し自由な暮らしの大切さ、リスクの高さ等について説明しており理解を得るよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと状態把握をし記録しており、体調変化に気付いた時は直ちに管理者に報告し医療受診など対応に心がけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋の内容を把握し服薬時は本人に手渡しや利用者によっては口の中まで確実に入れ服用させている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や運動、腹部マッサージ等に取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、利用者によっては職員が介助を行っており入れ歯洗浄剤などの使用も工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックし記録しており水分制限のある利用者など管理している。栄養バランスに関しては母体法人の栄養士より支援あり連携を図っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めインフルエンザ等の予防接種は利用者、ご家族の同意を受け接種しており職員も受けている。感染症に関する研修にも参加し意識付けを行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所周りに清潔衛生に心がけており、冷蔵庫も定期的にチェックし清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木や花のプランターを置き、季節感に心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず湯や菖蒲湯など採り入れたり、食堂等に季節感の飾りつけ等を工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を置き、下駄箱の上には利用者の干支の置物を置いており居間には掘り炬燵を設置し寛いで過ごして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのタンスや仏壇、カーペット等一人一人のスタイルで過ごせる様に本人とご家族と相談しながら工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や定期的に換気をしており、利用者の様子を見、確認しながら調整に努めている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、玄関等には手すりを設置しており、床は段差をなくし安全確保に努めている。シンクの高さも自立を意識した工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を見極めて、環境整備に努めているが、不安や混乱、失敗が生じた時はその都度、職員で話し合い取り除けるよう配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花や植木を植えたりしているが、外周が駐車場や道路となっており、庭がないため活用範囲が少ない。		限られたスペースでも日常的に楽しみながら活動できる工夫をして行く

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は職員一同が笑顔に溢れ明るく利用者様と家族のように接して和やかな生活を送って頂いております。また母体法人が病院であり利用者様の状態変化時は早急に相談、指導を受けられ本人、ご家族様には安心して生活出来ると喜んで頂いております。食事も栄養士の管理にて病気に合った食事をバランス良く摂取することが出来ます。